



第 282 回つくば分子生命科学セミナー

TSUKUBA MOLECULAR LIFE SCIENCE SEMINAR

演題：mRNA キャップ構造の発見から、新薬開発まで

演者：古市 泰宏 博士

(株) ジーンケア研究所・会長

日時：2009 年 1 月 20 日 (火) 10:00～11:30

会場：医学地区 共同利用棟 B-202

要旨：

古市泰宏博士が国立遺伝学研究所の研究員時代に発見された「真核細胞 mRNA の 5' 末端のキャップ構造」は、今では常識となっている教科書レベルの重要な発見であり、米国ロシュ分子生物学研究所で引き続き行われた研究成果を含めて、以降の遺伝子発現調節研究の根幹をなす発見の一つです。

その後、(株) 日本ロシュ・研究所、(株) エイジーン研究所、(株) ジーンケア研究所においては、DNA ヘリカーゼの生理機能とその変異による疾患のメカニズムについて、世界をリードする研究成果を発表され続けられてきました。

現在、博士を中心として開発がすすめられている抗がん剤「RecQL1-siRNA」は、特異性が高く、がん細胞を選択的にアポトーシス（細胞死）へ誘導する副作用の少ない抗がん剤として期待を集めています。この開発成果に関する特許については、すでに 2005 年に米アルナイラム社と同遺伝子の独占的使用許諾のライセンス契約を締結されています。日本新薬の開発した DDS 技術と組み合わせて、安全性と有効性の向上に向けた開発研究も途上です。

本セミナーでは、科学者としての、また企業人としてのお立場からお話を伺います。奮ってご来聴ください。

本セミナーは、つくば分子生命科学セミナーと医科学セミナーも兼ねたセミナーであり、単位の一環でもあります。

連絡先： 人間総合科学研究科 永田 恭介 (内線 3233)

【筑波分子医学協会 (TSMM) 主催】 HP <http://www.md.tsukuba.ac.jp/public/tsmm/>

セミナー担当 筑波大学基礎医学系 塩見健輔